

スカルフェイスは顔が怖い

サイリウム

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

トレセン学園にいるかもしれないとっても顔が怖いウマ娘のお話。

目次

スカルフェイスは顔が怖い	1
ゴルシも怖いものは怖い	4
会長だって怖いのだ・1	9
会長だって怖いのだ・2	16

スカルフフェイスは顔が怖い

日本ウマ娘トレーニングセンター学園、通称トレセン学園。

東京都府中市に所在し、2000人以上の生徒が日夜、トウインクルシリーズで活躍するために鍛錬を積む場でござえます。

今回はその学園に所属する一人のウマ娘の話をさせていただきます。

名はスカルフフェイス。

高等部に所属するウマ娘でございますが、実はいろいろな噂話がございまして、

やれ、絶対に犯罪に手を染めている。

やれ、暴走族のトップである。

やれ、URAを裏から操っている。

やれ、ゴルシが唯一いたずらを仕掛けない。

などと今簡単に上げたものでもひどい言われよう。しかもこれはほんの序の口であるからおもしろいところ。

実は彼女自体、根の優しい一般的ウマ娘であり、虫すら殺したことはないか弱い乙女ではあるのですが……

まあなんでこのような根も葉もないような噂話があがってしまったかといえますと

とんでもなく顔が怖いのです。

あのすべてのウマ娘を幸せにしたいと公言する冷静沈着な生徒会長、シンボリルドルフが初対面で

「え、こわ……」

と、こぼしてしまうほど凶悪な顔つきであり、あのライスシャワーは彼女の顔を見たときに号泣しながら裸足で逃げてしまうほど怖いのです。

しかもとんでもなく口下手で全くというほど喋ることがない、所謂コミュ障であり、身長が高く、ガタイも無駄にいいので顔の怖さを助長してしまっている。性格だけは非常にいい子であり、川でおぼれている子猫を自身の服が汚れるなどを考えずに、すぐに飛び込んで救出するほどののだが、顔とその他もろもろのせいで台無し何でございませぬ。

かくいうわたくしも初対面の時は驚きまして、ちよいとばかり勘違いしてしまったのは良い思い出です。

ま、そんな顔の怖さだけで盛大に損をしているそんな彼女にでも好きなもの存在しまして。

ウマ娘。

彼女は自身以外の可愛らしいウマ娘たちが大好きだったんですね。

先ほどであげたシンボリルドルフとの初対面の時も脳内で

(は!? カッコ良すぎるんだが???) なにこの凛々しいお目目にきりつとした口先! 惚れてまやろ! いや惚れたんですけど、どう責任取っていただけの??? というかこのカッコイイ会長のお口からオヤジギャグが出てくるとか考えられないんだけど! ギャップで尊死しそうなんだけど! ああ、もうどうしたらいいの!!! ツ! 駄目よスカルフェイス! いくら会長が尊いからといってお顔を崩したら! きりつとしてちゃんと受け答えしないと!)

「よろしくお願いいたします。」（こみでる尊みを抑えるために顔が引きつってる。）

「え、こわ……」

と、なっていたという寸法。

ま、そんなスカルフェイスの話をしていこうと思っておりますので、お付き合いいただければ、と。

おっと、申し遅れました。わたくし今回の語り手を務めさせていただきます、彼女の大親友のアグネスデジタルと申します。以後、よしなに。

ゴールドシも怖いものは怖い

さてさて皆様、今回も語らせていただきます。

とつても顔が怖いウマ娘の話。

怖すぎて虫も殺せないような乙女が個性の魔境と言われるトレセン学園でいかに頭角を現していったのか、語らせていただきますしよう。え、お前も個性の塊だろうか？ 何のことでしょう？

と、いうわけで今回は彼女の逸話の一つ、ゴールドシップとの関係性を語らしていただきます。

ゴールドシップ、このウマ娘。なんとイタズラが大好き。西へ行つてトーセンジョーダンにドロップキック。東にはメジロの御令嬢にからし入りたい焼きをたらふくプレゼント。彼女のいく先にはたくさんの喜劇と後からやってくる”とつつあん”ことエアグルーヴのストレスからくる胃痛が絶えないというなんともすごいウマ娘でございますが、やっぱり彼女にも苦手なものがございます。

彼女、イタズラは仕掛けるけど、本気で怒るようなイタズラはしなかつたり、後始末はきつちりしていたりとそこるところしつかりしているのですが、彼女にもいたずらを仕掛けられない相手がございますた。

そう、スカルフフェイスでございます。

本人からことの本末を聞いた時は驚いたものです。だってその時彼女はあのシンボリドルフ会長に対してイタズラを仕掛けていたもんですから、会長は良くて彼女は駄目なのかと驚いたもんです。

あ、ちなみにその時は会長が丹精込めて作成していたダジャレ帳に彼女の厳選した洒落を思いつく限りかき込んだそうです。数日生徒会室から会長の笑い声が途切れることはありませんでした。

ま、そんなことは置いといてスカルフェイスのことです。

なんでイタズラを仕掛けないんですか、と聞いたところ。

「……マジで言ってる？ いやアイツ怖いじゃん。いたずらしたとして、報復でロケランぶっ放してきそうで怖い。さすがにゴルシちゃんでも無理です。」

と、一言。

いや、ロケランってコマンドーかよ。とあってしまいました。がわたしも懇切説明。彼女いい子だから親交を深めるためにでも軽いイタズラでもいいから仕掛けてあげてくれませんか、と。

この時私、何といいますか彼女の交友関係を危惧しておりました、このまま私ぐらいと接点なかったらどうする、と思っていました。だから真剣でございました。まあわたくしの趣味が入っていません。と嘘になります。だって今まで顔のせいで嫌われていた、怖がられていた子がみんなと仲良くなっていくのって尊みが深いじゃん。見たいじゃん。デジさんのポリシーに反しちゃうけどこのままだと起きるものも起きないので頑張りました。

あいつ顔が怖いだけですごく損してるんですよ。しかも口下手だからさらに。

どうかあいつのためにもやってくれませんか、と

友達私ぐらいしかいなくて色々苦労してるんです、あいつ。

その説得のおかげか……

「ん〜、ホントにそうなのか？ いやホントにそうなら悪いことして
たみたいなんだけど……、まあものは試しに軽いのやってみようかな
？」

とうまくいきました。

イタズラの内容は軽め？と言っていましたでしたがわたくし的には重め。
まあゴルシちゃん的には軽めだったんでしょう。よくあるドアを開
けた瞬間にものが落ちてくるタイプの物でした。

落ちてくるものはバケツ一杯のお水。ここでニンジン、とかにして
おけばよかったです。デジたんちよつとずぶ濡れのスカルちゃん
気になちやって止められませんでした。だってスケスケ、ねえ？

手順としてはわたくしがスカルフエイスを空き教室に呼びまして、
ゴールドシツプと私が教室内で待機、そこにスカルフエイスがやって
きてドアを開けた瞬間にバケツがひっくり返る。そして水浸しに
なった後に二人でイタズラ大成功、のプラカードをもって登場！ と
いう手はずでした。

計画は良かったんです、計画は。

スカルフエイス、わたくしから新しいお友達候補発見！ というお
話を受けてもう狂気乱舞。いつものこわ〜いお顔が3割増しで怖く
なるような素晴らしく口角が引きつった笑顔と鼻歌を共にスキップ
で呼ばれた場所に向かいます。

いつもは他のウマ娘の皆さん、すれ違う時に顔をそむける、我関せ
ずの態度を取るのが普通ですがその時ばかりはすれ違うすべての方
が顔を壁の方に向けて一切彼女が視界に入らないように、嵐が過ぎ去

るのを蹲って待つ幼子のように壁に向かって直立していたそうです。実際に見たわけではありませんが多くのウマ娘にとつての恐怖の対象が引きつった笑みを浮かべ、鼻歌を歌いながらスキップで近づいてきたら仕方ないのかもしれないかもしれませんがちよいとばかりしヒドイなどもってしまふ次第。

ま、そんなルンルンで空き教室に向かってきた彼女はうれしさのあまり思いつきりドアを開けてしまうのです。

まあその思い切りの良さが今回ばかりはよろしくなく、勢いよくトランプが作動し思っていたよりも激しく彼女にバケツの水がぶちまけられます。

私とゴルシさん、多分同じこと思ってたんじゃないでしょうか？
「「あ、ヤベ」と。

彼女、すぐには何が起きたのか解りませんでしたでしたが私とゴールドシップさんを見て物事を把握。

自分のためにイタズラを仕掛けてくれたんだと歓喜。まあこの子顔のせいでもろくな交友関係がなかったせいでこのようなイタズラされるのが初めてですごくうれしかったみたいです。

まあそのせいで、先ほどよりも口角をあげて、怖さ5割増しのいい笑顔で笑い出しちゃったんです。

「ふふ、ふふふふふふ、ふふふふふふふふふふ」

まああの時ばかりはこのデジたんも恐怖を覚えました。

びしょ濡れで、元も髪が長めだったため幽鬼のようになっており、口は怖いぐらいに三日月形。それにそんな不気味な笑い方されたら、ねえ？

ゴルシさんもうお顔を真っ青にしてブルブル震えだし、

「ご、ごめんなさい〜！」

と、叫びながら逃げていつちやいました。

スカルフエイスちゃんはせっかく新しいお友達出来ると思っっていたのにしょんぼり。

ま、これがこの話の顛末でございました。

ちなみにそのあとゴルシさんはマツクイーンさんのお部屋に逃げ込み、彼女の布団の中で二、三日ブルブル震えていたそうです。マツクイーンさんが

「なんというか、母性、というのでしょうか？ いや孫？ なんだか、かわいがりたくて仕方ありません。」

と、いうのを聞きデジたんのデジたんがスプラッシュしてしまったのはご愛敬。

皆様もイタズラにはお気をつけくださいませ。

あ、ちゃんとゴルシさんは元に戻りましたよ。ただ、誤解はさらに深まってしまいました。

会長だつて怖いのだ・1

皆さま、お久しぶりでございます。今回も語り手を務めさせていただきます、アグネスデジタルと申します。まあわたくしの話し方がいつもと違うつてのはこういった場、ということでご容赦いただければ幸いです。

だから、そこ。ギャップだとかで笑わない。

……おほん。では今回も顔が怖すぎるウマ娘こと、スカルフエイスのお話。最後まで聞いてくだされば、これ幸いです。

さて、今回させていただくのはここで初めてお話させていただいた時に少しだけ話した、彼女と我らが会長シンボルドルフとの邂逅。初対面の時のことについてお話させていただきます。

時は遡りまして、結構前。そう彼女ことスカルフエイスがトレセン学園に編入してきたときのお話となります。彼女、このデジたんなどとは違い、編入生でございます。高校に上がったときにこちらにやってきた生徒となります。まあそのせいで彼女の友人の少なさを助長している分もございますが。

まあそんなわけでやってきましたスカルフエイス。なんと前評判からもマイナスに振り切っております。彼女、中央に入れる、それも編入なので結構実力はありまして、地元の地方トレセンの方では負けなしだったそうです。

その負けなしの彼女がなんでわざわざ中央にやってきたかという、強い相手と戦いたい。……とかではなくて、単に地元に住ぶらくなり、中央に行ける実力があつたから逃げて来た、というのが正しいのです。

先日、彼女の帰郷に付き合わせていただきましたが、なんとまあす

ごいものでして。町を歩けば地元のトレセン学園生と思われる制服を着た方に

「姉御！ お疲れ様です！」

「いつ帰ってきたんすか姉御！ 中央はどうでした！」

「姉御！ 溜まってたぶんのシャバ代です！ お納めくませえ！」

とまあ彼女の舎弟だらけでございました。うん。

彼女の話によると、何でも持ち前の顔の怖さと口下手が幸いして、知らないうちにそういったアウトローな方々の統領になってしまい、多分現在進行形で拡大している。

気が付いたら周りヤクザみたいな人ばかりで、そんな人たちが自分のこと担ぎ始めているのが非常に怖くなり、逃げるように中央に編入手続きを進めていたそうです。

はつきり言つて、ヤバいですよね。あ、あとデジさんは中央の舎弟第一号として扱われました。それを弁明しようとスカルちゃん頑張ったところ、何故か中央の幹部だと勘違いされて彼女の組織が中央まで拡大しているとまで勘違いされました。彼女の舎弟の方々にはスカルフフェイスが府中で一代組織を作り上げ、その頂点にいますと考えているそうです。

ま、そんな前評判と共に中央に移籍したスカルフフェイス。彼女自体なにもしていないので経歴は真っ白で転入はうまくいきましたが、噂がヤバい。当然受け入れる学園側も警戒度MAXです。

当時流れていた噂としては暴走族の総長、地方トレセンを裏から操るヤバい奴、経歴詐称、実は人を何人か闇に葬った、などなど。

そんななか立ち上がったのは我らが会長シンボリドルフ。このトレセン学園を荒らされるわけにはいかない彼女。すべてのウマ娘を幸せにするべく、まずは我が学園の安寧を守るべく動き出した彼女はまず最初に面と向かってお話をしようとしたそうです。

編入初日に生徒会室に来てもらい、本当にスカルフエイスのうわさが真実なのか、それとも経歴通り真っ白なのか話し合って確かめようとしたんですね。

まあそんなこんなでスカルフエイスちゃん、トレセン学園にやってくる日になりました。

このスカルフエイスちゃん、ウキウキです。なんと言っても新天地。今までの自分と決別し、新たなお友達を作って楽しいスクールライフを送るんだという希望を胸に、自然と口角が上がります、引きつります。

迎えるべきは我らがシンボルドルドルフ会長。本来なら理事長秘書のたづなさんが対応なさるんですが、今日に限ってお留守。かといって他の方は噂のせいで怖がってやりたがらないので会長が担当なさることになりました。

あの時、非常に凛々しいお顔をしておりまして、

『私がこの学園を守るんだ！』

みたいな意思がありありと見えておりまして、デジたんそこら辺の木に隠れながら真っ赤なエナジーがあふれ出るのを食い止めておりました。

そして迫る時間。やってくるスカルフエイス！

彼女、そういうのはしっかりしてるので時間通り定刻！　しっかりとやってまいりました！

ですが問題は顔！　口裂け女かというほどにひん曲がったしまったお口！　希望に満ち溢れたせいでらんらんと光るお目目！　新天地のせいでちよつとばかしテンションが上がってるせいで笑い声から洩れている！　もはや怪異！

ゆつくりと近づいてくる怪物。この時デジたん何も知らなかった
ので隠れながら震えておりました。まったく知らない感じたこと
のないプレッシャー！ 歓喜の大ききのせいで逆に恐怖につながる威
圧感！ デジたんは震えます……、が、ここで希望を思い出します！
そうだ、私たちには会長がいるじゃないか！ 会長なら何とかして
くれる！ 会長ならカツコよく撃退してくれる！
だってあのオグリキャップに対して

『中央を舐めるなよ。』

とまで言った会長だぞ！ 今回も……、と思いながら会長が仁王立
ちしている方に顔を向けます。

プルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプルプル

足が、小鹿のように震えていらっしやる。

デジたん思いました。

あ、終わったな、と。

—————

「それで……………、挨拶……………、実家……………、だめ？」

「えーっと、初めての友達だし、家族に紹介したいからこの休みを活用して一緒に実家に来て欲しいってことでいいの？」

コクコク！

「いや、別にいいんだけどホントに大丈夫？ 確かあんまり帰りたい場所じゃないんでしょ。」

家族に紹介したい欲VS地元のヤンキー怖いVSダーククライ

……………

勝者、家族に紹介したい欲！

コク！

「オウ、またなんか葛藤してましたね。んじや、行きましようか。」
（まあデジたん普通にスカルちゃんのお家気になりますし、噂の真相がどうなのかも気になるから前から行ってみたかったんだよね。デジたんの好みは少ないだろうけど友人の頼みですしお寿司、一肌くら

いぬぎまさあ！ ……にしても相変わらず口下手というか単語だけ
というか。）

—————

結果。

「姉御！ お疲れ様です！」

「いつ帰ってきたんすか姉御！ 中央はどうでした！」

「姉御！ 溜まってたぶんのシャバ代です！ お納めくませえ！」

デジたんたち数十人のウマ娘ヤンキーの方々に囲まれております
る。あ、でもこれもなんか新感覚でいいかも……、は！ いけない
けない。隣でマイフレンドが助けを求めているのだ！ こんなとこ
ろで終われない！

「それで、姉御！ その隣のちっせい奴は誰ですか！」

「あっちでの新しい舎弟ですか！」

「オイこら！ 俺の方が先輩なんだからなあ！」

あ、舎弟認定されとる。

「違う………！！！！ デジタルは………友達。」

ヤンキー怖いのにその恐怖を振り払って誤解を解こうとした。私

のために頑張ってくれた。

あ、ごめん。もう無理、尊い（浄化）

「友、達。」

「い、いままで姉貴がダチ判定なさった奴なんかいねえ！」

「と、いうことは……」

「「「「も、申し訳ございませんでしたー！ー！！！！」」」」

そこにいたアウトローな方々が全員土下座なさっている。ごめんちよつと尊みを何とか消化してるから待って。

「あ、姉貴のダチとは露知らず、舎弟扱いしてしまい！」

「この失態、なんとお詫びすればいいか！」

「私、今から指詰めます！」

その後、デジたんが真っ赤なものがあふれ出るのを何とか耐えている間。勘違いは進んだがスカルちゃんは何とかしてくれた。感謝である。

会長だつて怖いのだ・2

さて、話は戻りまして我らがシンボリドルフ会長の場面でございます。

そう、会長。足がプルプルでございます。

もう生まれたての小鹿のよう！ でもでも、お顔だけはしつかり、きつぱり、くつきりと。

トレセンに向かってゆつくりと歩を進めるスカルフエイスを見つめております。

ここで元凶スカルフエイスちゃん。やっとこさ校門の前で仁王立ちをしていらつしやる会長を視界に入れます。

さつきまでウキウキだつた彼女。

会長を視界に入れたこととあることを思い出します。

彼女をトレセンに招き入れたのは実は理事長秘書のたづなさん。最終的な許可は理事長のちみっこでございますが、話を持ってきたのは彼女でございます。そのたづなさん、実は初めてやってくる彼女にあることを教えておりました。

『ごめんなさい、スカルフエイスさん。本当は私が学園を案内する予定だつたんですけど緊急の会議が入ってしまったてあなたが来る頃に迎えに行けなさそうなんです。一応代役にシンボリドルフさんを立てておきましたので、仲良くしてくださいね。今は生徒会長なんかやっていますけどかわいい子ですし、仲良くできると思いますよ。あ、ルナちゃん、彼女の愛称なんですけどそう呼んであげると喜ぶかもしれないですね。』

そう、たづなさん。教えちゃってるんです。この話をするために

色々取材なんかを行っているのですが、たづなさん悪気一切なくてこれ話してるんですよね……。今となっては会長のルナちゃん呼びは一定の市民権を得てはいますがスカルちゃんがやってきたときは話は別。会長の認めた、彼女の参謀といえるトレーナーさんにしか話したことのなかった呼び名無そうで。

……いまさらですけどなんでたづなさん知ってるんでしょ？

まあ彼女所謂戦後の賭け事が行われていた時代で先頭を走っていたなんていう噂もございますし、反社的なものに対する寛容さとか、異様な情報収集能力とか疑問の残ることが多いですが、突っ込みすぎるとデジたん明日の朝日を迎えることが出来なくなってしまうのでお口チャック。

ま、そんなわけでスカルちゃん思うんです、『あ、たづなさんが言っていたシンボルドルフさんだ！ あ、でも生徒会長さんだよ……。丁寧にした方がいいのかな。でもたづなさんルナちゃん呼びしてあげると喜ぶって言ってたし、そう呼んだ方がいいのかなあ……。あ！ 笑顔笑顔！』

てな感じで口裂け女フォームを維持しながら一歩、また一歩と前進を始めるわけでございます。

しかもこの子、根がいいのでお待たせするわけにはいかないと速度上げる、まあ駆け足になるんですね。

会長としては恐怖倍増でございます。ちよつとづつちよつとづつ近づいている恐怖が速度を上げてきたわけですから、足の震えもその分酷くなります。ちなみにデジたんはこの辺りで会長がだめだと理解してしまい、意識をバイバイしてしまっているのでここからはご本人方に聞いた話を元にお話ししますね。

スカルちゃん、ついに会長の目の前にたどり着きました。ウマ娘にしてはかなり大きめの身長190オーバーの巨体、それが見下ろすよ

うな形でシンボリルドルフを見るわけです。

第一声、

『これからお世話になります、スカルフエイスです。』

スカルちゃん、ちゃんと挨拶できてエライ！ でも笑顔が大事って思っているので口裂け度が上がっているぞ！ あと緊張しているせいか声が固まっててさらに怖いぞ！

会長、これを聞きまして考えます。

『お世話になる』の意味を。

スカルフエイスにとっては普通の挨拶、でもでも会長にとっては看過できません。

お世話になるとは一体全体どういうことなのか、噂通りのやべー奴で、夜露死苦的なお世話になるのか！

でもでも会長、ここで話を大きくするわけにはいきません、まだ勘違いの可能性もございます！

ここはできるだけだけ穏便に、また間違いだった時にリカバリーできるような感じで返答しなければ！

会長の脳みそフル回転、ここで思い至った回答は………！

『ああ、こちらこそよろしく。』

うん、無難！ そして会長おてて伸ばして握手の構え！

こっちはことを大きくしてもらっては困る！ おとなしくしてほしい！ 後できたらなかよくしようねの握手！

スカルちゃん大歓喜！ ここが所謂友情の握手というものではないかと勘違い！

嬉しくなってもっとニコニコ！ おてて差し出して握手を受け入れます！

ここでスカルちゃん……、いらんことを考えちゃいました。

相手側がこっちの嬉しいことをしてくれたんだ、こっちもお返ししてあげないといけないね、との好意！

『ええ、よろしくお願いしますね、“ルナ”ちゃん。』

その言葉を聞いた瞬間、会長に電流が走ります。

なんでその名前を知っている、です。このルナちゃん。会長の幼名でございまして、彼女の親しい人ぐらいしか知らない秘密の呼び名でした、当時。

つまるところルナ、という呼び名を目の前の彼女が知っているわけなんてありえるはずがないんです。

スカルフエイスが“ルナ”なんて名前、知っていいはずがないんです。

会長、ここで思い当ってしまいます。

……もしや、私の親しい人に何か拷問的なことをしてその名前を知ったのではないか！

わざわざその名前を使ったということは、『逆らったらどうなるか、解ってるよね、“ルナちゃん”？』ではないか!? 私が何かスカルフエイスにとって不利なことをしでかしてしまった場合、私の幼名を知っている家族、もしくは会長のトレーナーに何らかの被害が及ぶのではないか！

会長、考えちゃいました。

でも、ここで関係のない人たちに危害を加えないでくれ、なんて叫んでしまえば彼女の気分が悪くなってしまうことは確実、だって彼女は『お世話になる』としか言っていない。

『ああ、こちうちこそ。よろしくお願いする。』

会長としてはそう返すしか方法はないのでした……。

まあもちろん完全な勘違いですしお寿司。会長のご家族には何もございませんし、会長のトレーナーはピンピンしております。スカルフエイスちゃんはたづなさんに教えてもらったことを実行しただけなので……

ま、誰が悪いとかなない悲しい勘違いでしたね、うん。

でもまあこの勘違いは色々と後に引く事件になっていくのですが……、ま、それはその時にお話しいたしましょう。

最後までご清聴ありがとうございました。

話し手は、私、アグネスデジタルが務めさせていただきました。

次回も足を運んでくださればこれに勝る幸福はございません。

では、またの機会に、ということでのこの場を二させていただきまする。

ではでは